

プログラム名 (40字以内)	熱帯林の保全と修復の現場で語り合う		
団体名/所属	農学生命科学研究科附属アジア生物資源環境研究センター		
活動区分	国際交流体験活動、 フィールドワーク体験活動	希望する選考方法	書類審査後に面接
募集人数	2人	選考対象	大学院学生を含む
活動方法	オンラインを活用しつつ現地活動を行う		
参加者に求めるもの	ひと・もの・こととの新たな出会いと暑さやぬかるんだ足元での散策や作業を楽しめること。 英語で一定程度コミュニケーションを取れること。		
活動期間	2025/7/27(日)～8/3(日) [日本発7/26、日本着8/4]、 ほかに事前準備のための日程あり	主な活動予定場所	インドネシア共和国東カリマンタン州
プログラム実施の目的	熱帯林の重要性に対する理解を現地での見学、実習と講義を通じて深め、熱帯林の保全と修復について現地の学生とともに考え、さまざまな気づきを得る		
具体的な内容(800字程度)	<p>ボルネオ島に広がる熱帯雨林は、地域スケールにおいても地球スケールにおいても非常に重要な機能を担っており、また生物多様性の観点からも極めて重要な生態系であるが、その劣化、減少がいまだに続いている。</p> <p>ボルネオ島の東側に位置するインドネシア共和国東カリマンタン州にあるムラワルマン大学と連携して、現地での見学、実習、講義で構成する1週間のプログラムを実施する。</p> <p>残存する熱帯雨林や石炭採掘現場を見学し、劣化した二次林での植栽体験をしながら、ムラワルマン大学の教員と本学の教員による熱帯林の保全と修復に関わる講義をムラワルマン大学の学生とともに受講し、熱帯林の保全と修復をこの先どのように進めるのがよいかについて考える。現地での使用言語は英語である。</p> <p>海外渡航および野外活動における安全管理について、農学生命科学研究科の安全管理指針に基づいた管理態勢で臨み、また参加者にも、本学環境安全本部が用意している「野外活動における安全衛生管理・事故防止指針」等を活用しながら、事前に安全を確保するための注意事項等を説明する。</p> <p>スケジュール(日程は確定、内容は微調整の可能性あり)</p> <p>7月26日(土) 東京発 7月27日(日) サマリンダ着 7月28日(月) 午前 開講式、ガイダンス、講義1, 2, 3 午後 ムラワルマン大学フキツスハルト演習林に移動、苗畑見学、歓迎会</p> <p>7月29日(火) 午前 講義4, 5, 6、植栽実習 午後 試験地見学、フキツパンキライ森林公園へ移動、見学</p> <p>7月30日(水) 首都移転緑化事業の苗畑と現場の見学 7月31日(木) クタイ国立公園見学 8月1日(金) 石炭採掘跡の森林再生事業の見学 8月2日(土) 参加者による発表、閉講式、送別会 8月3日(日) サマリンダ発 8月4日(月) 東京着</p> <p>講義トピックス(1講義75分)</p> <p>1. 熱帯林の現状、2. ボルネオの森林、3. リモートセンシング、4. 樹木の環境応答と造林、5. 森林の保全、6. 地域社会問題など 担当教員: 東京大学: 齊藤陽子(農・生圏システム)、則定真利子(農・アジアセンター)、ムラワルマン大学: スカルティニンシー(林学部)ほか</p>		
【総額】参加するための費用	210,000円程度を予定しているが、航空運賃の高騰によりそれよりも高くなる可能性がある。		
【内訳】参加するための費用 (宿泊費)	30,000円程度		
【内訳】参加するための費用 (交通費)	165,000円程度(うち航空運賃150,000円程度、現地移動経費15,000円程度)		
【内訳】参加するための費用 (その他)	15,000円程度(食費ほか)		
奨励金額(予定)	40,000円		
備考	特になし		
活動に関する関係資料の ダウンロードサイト			
応募団体を紹介するウェブサイト 等(団体で応募の場合)			
この企画に対する担当者 (応募団体)の参加の有無	参加する		